

平成 30 年度 大田区 10 か年基本計画 「おおた未来プラン 10 年（後期）」に係る区民アンケート調査

- 平成 30 年 7 月実施 -
《 概 要 版 》

大田区では、「おおた未来プラン 10 年（後期）」（平成 26～30 年度）の計画期間終了を控え、これまでの取り組みについて検証するため、アンケート調査を実施しました。この小冊子は、その調査結果の概要をお知らせするものです。

調査にご協力いただいた皆様に心から御礼申し上げます。

平成 30 年 10 月

大田区 企画経営部 企画課

●調査概要

対 象 者 大田区内に居住する満 18 歳以上の男女個人
対 象 数 2,400 人
有効回収数 777 人（電子申請での回答含む）
有効回答率 32.4%
抽 出 方 法 層化無作為抽出
調 査 方 法 配布は郵送方式。回答収集は、郵送または電子申請方式。

●グラフの見方

- ・ n はその設問の回答者数を表す。
- ・ 集計は小数点以下第二位を四捨五入してあるので、合計が 100%にならない場合がある。
- ・ 複数回答の場合は、合計が 100%を超えることがある。

目 次

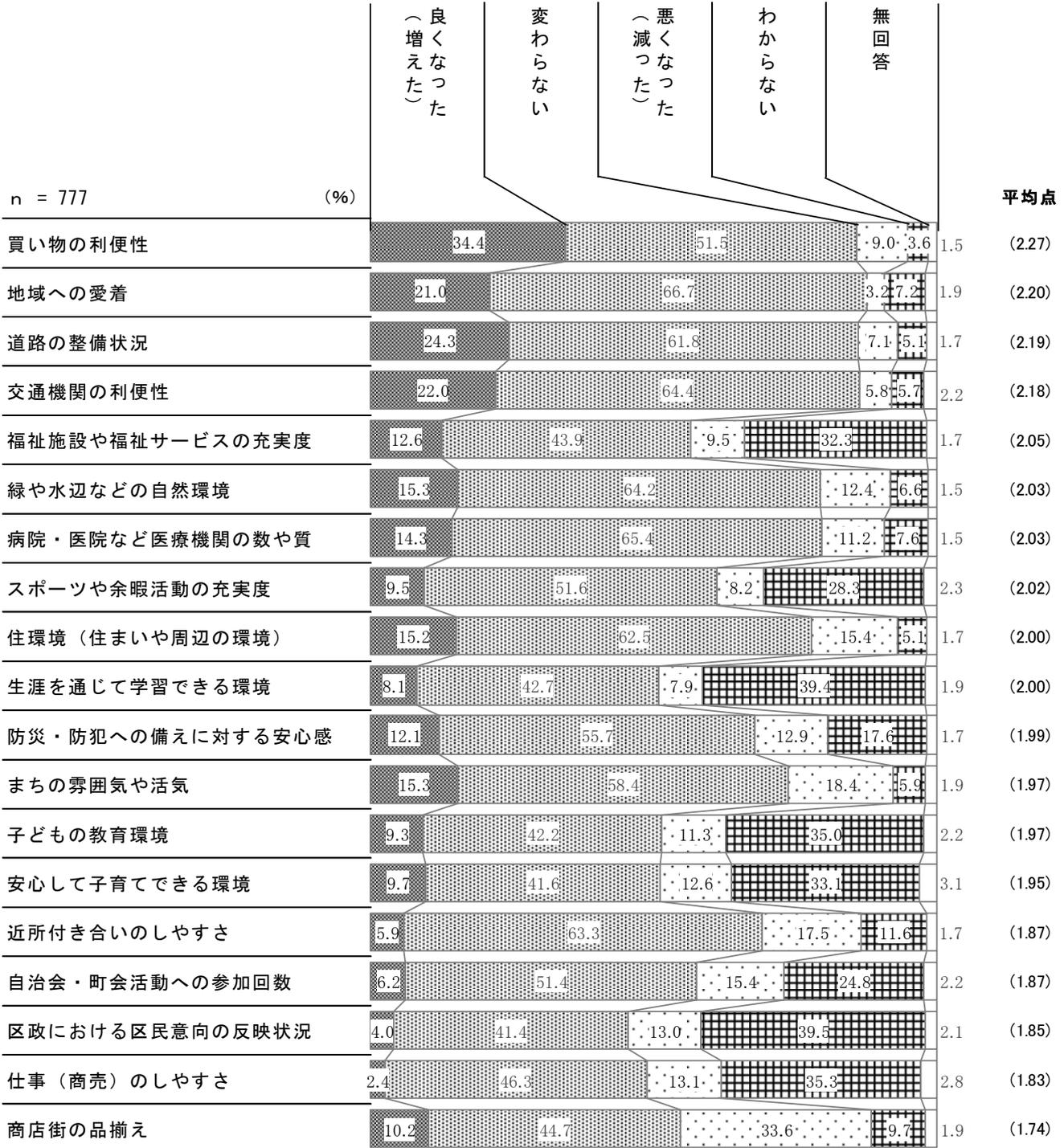
1. 最近5～10年間における変化	3
2. 重視していくべき区の施策	4
3. 大田区の将来イメージ	5
4. 「少子社会への対応」に関して力を入れていくべき課題	6
5. 「教育の充実」に関して力を入れていくべき課題	7
6. 「高齢社会への対応」に関して力を入れていくべき課題	8
7. 「住みよいまちづくり」に関して力を入れていくべき課題	9
8. 「『羽田空港』が立地する大田区でのまちづくり」として取り組みを進めるべき課題	10
9. 「地域力を活かした区政」に関して力を入れていくべき課題	11
10. 「環境問題」に関して力を入れていくべき課題	12
11. 「区民主体の区政実現」に関して力を入れていくべき課題	13
12. 今後の公共施設整備の進め方	14
13. 今後の公民連携の進め方	14
14. マイナンバーカードの活用や行政手続きの電子化などについて期待すること	15
15. 特別出張所の今後のあり方	16

1. 最近5～10年間における変化

■ 『買い物の利便性』が良くなった」が3割台半ば近く

「良くなった（増えた）」率を全体で見ると『買い物の利便性』が34.4%で最も高く、平均点でも2.27点で最も高い結果となった。次いで平均点が高かったのは『地域への愛着』（2.20点）、『道路の整備状況』（2.19点）、『交通機関の利便性』（2.18点）の順になり、上位4項目までが平均点で2.10点を超える結果となった。

※ 欄外の「平均点」は、以下の19項目について最近5～10年間における変化を比較しやすくするために、回答内容を次のとおり点数化して求めた。『良くなった（増えた）』（+3点）、『変わらない』（+2点）、『悪くなった（減った）』（+1点）、『わからない』と『無回答』は、加点の対象に含まないで算出した。

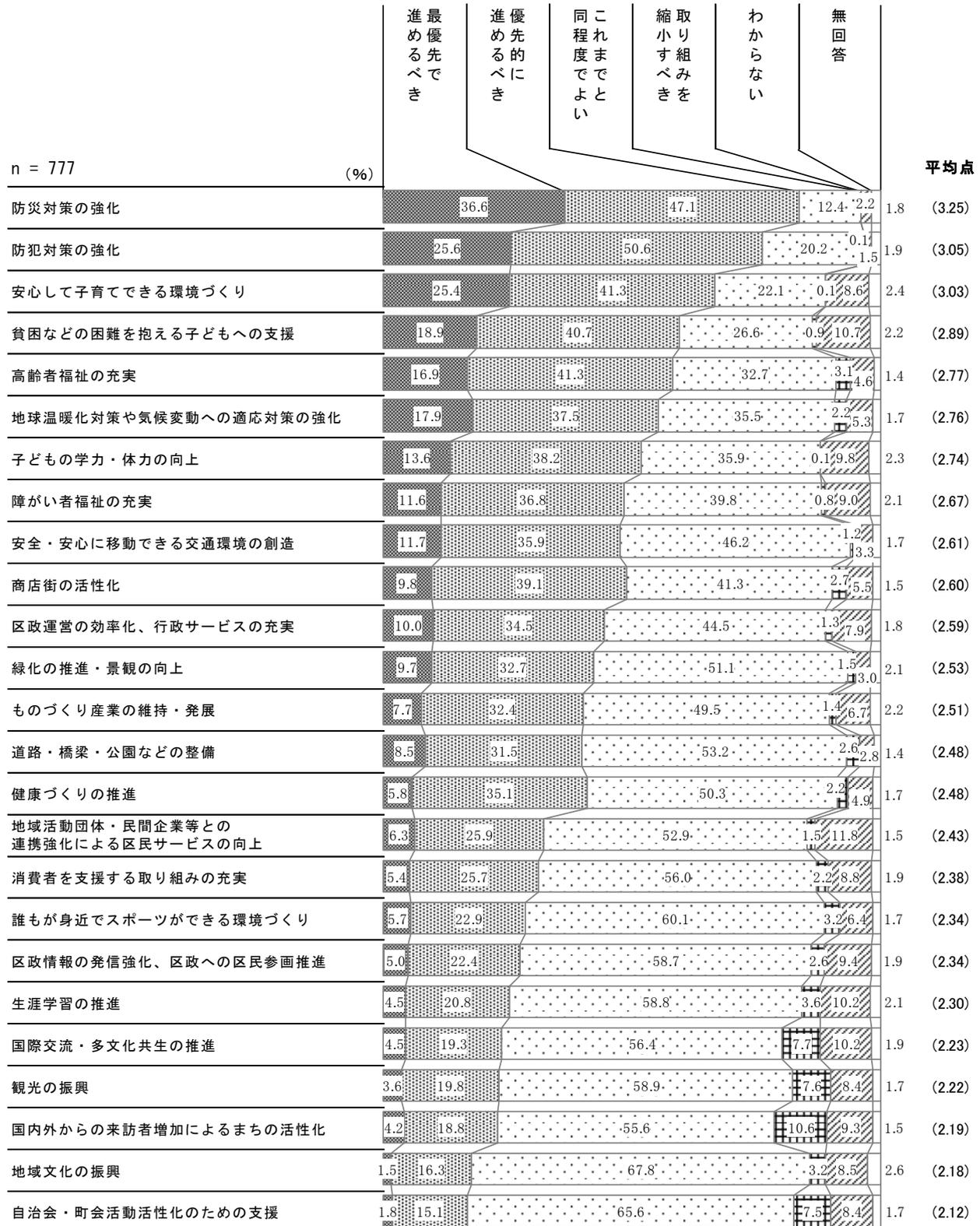


2. 重視していくべき区の施策

■ 《取り組みを進めるべき（計）》では、『防災対策の強化』が8割台半ば近く

「最優先で進めるべき」と「優先的に進めるべき」を合わせた《取り組みを進めるべき（計）》では、『防災対策の強化』（83.7%）が最も高く、次いで『防犯対策の強化』（76.2%）、『安心して子育てできる環境づくり』（66.7%）の順となった。

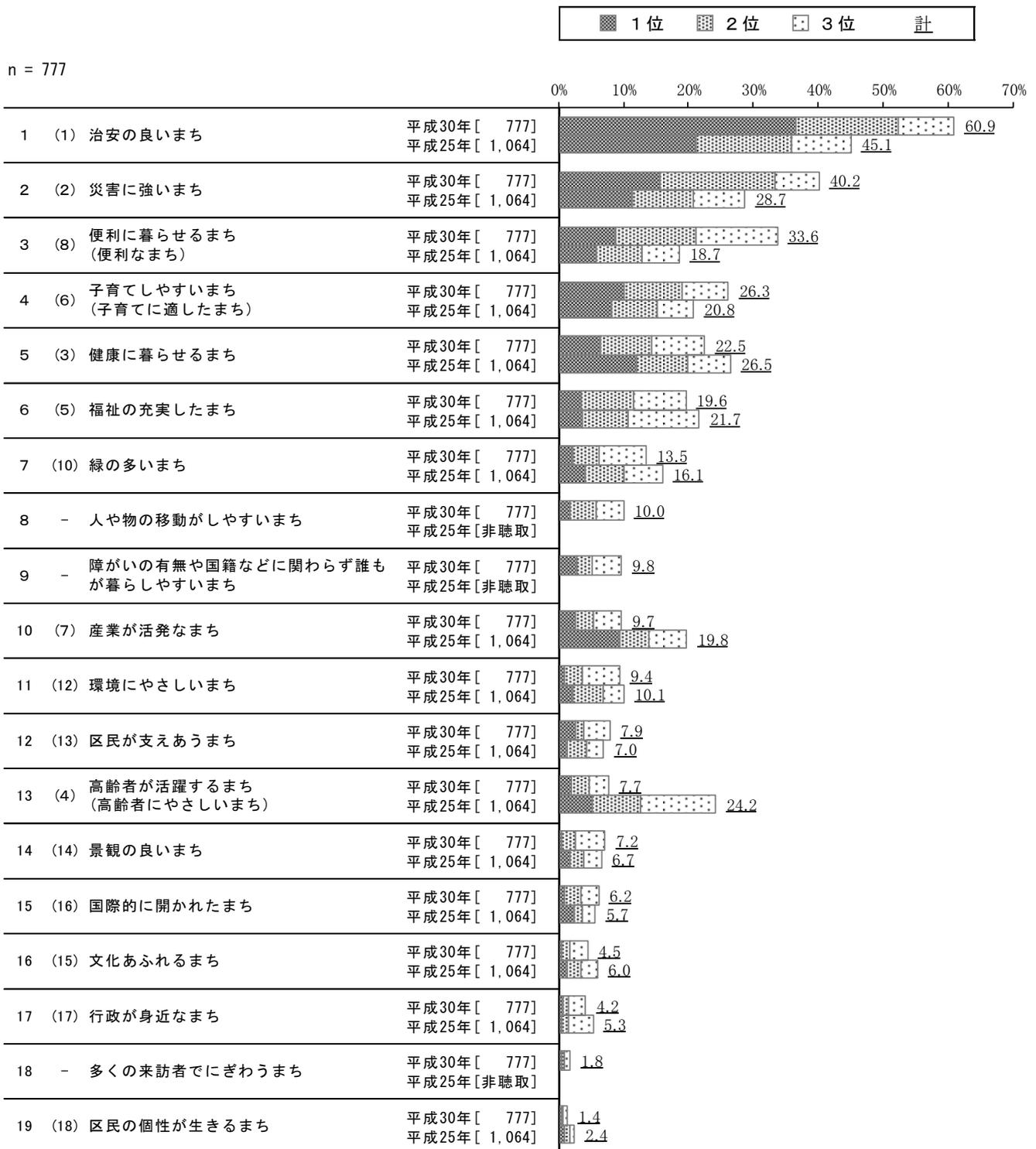
※ 欄外の「平均点」は、以下の25項目について重視していくべき区の施策を比較しやすくするために、回答内容を次のとおり点数化して求めた。『最優先で進めるべき』（+4点）、『優先的に進めるべき』（+3点）、『これまでと同程度でよい』（+2点）、『取り組みを縮小すべき』（+1点）、『わからない』と『無回答』は、加点の対象に含まないで算出した。



3. 大田区の将来イメージ

■ 『治安の良いまち』が約6割

大田区の将来イメージの第1位では、『治安の良いまち』が36.6%となり、他の項目と比較して高い結果となった。第1位～第3位の回答を合算した率で見ると『治安の良いまち』(60.9%)が最も高く、次いで『災害に強いまち』(40.2%)、『便利に暮らせるまち』(33.6%)の順となった。

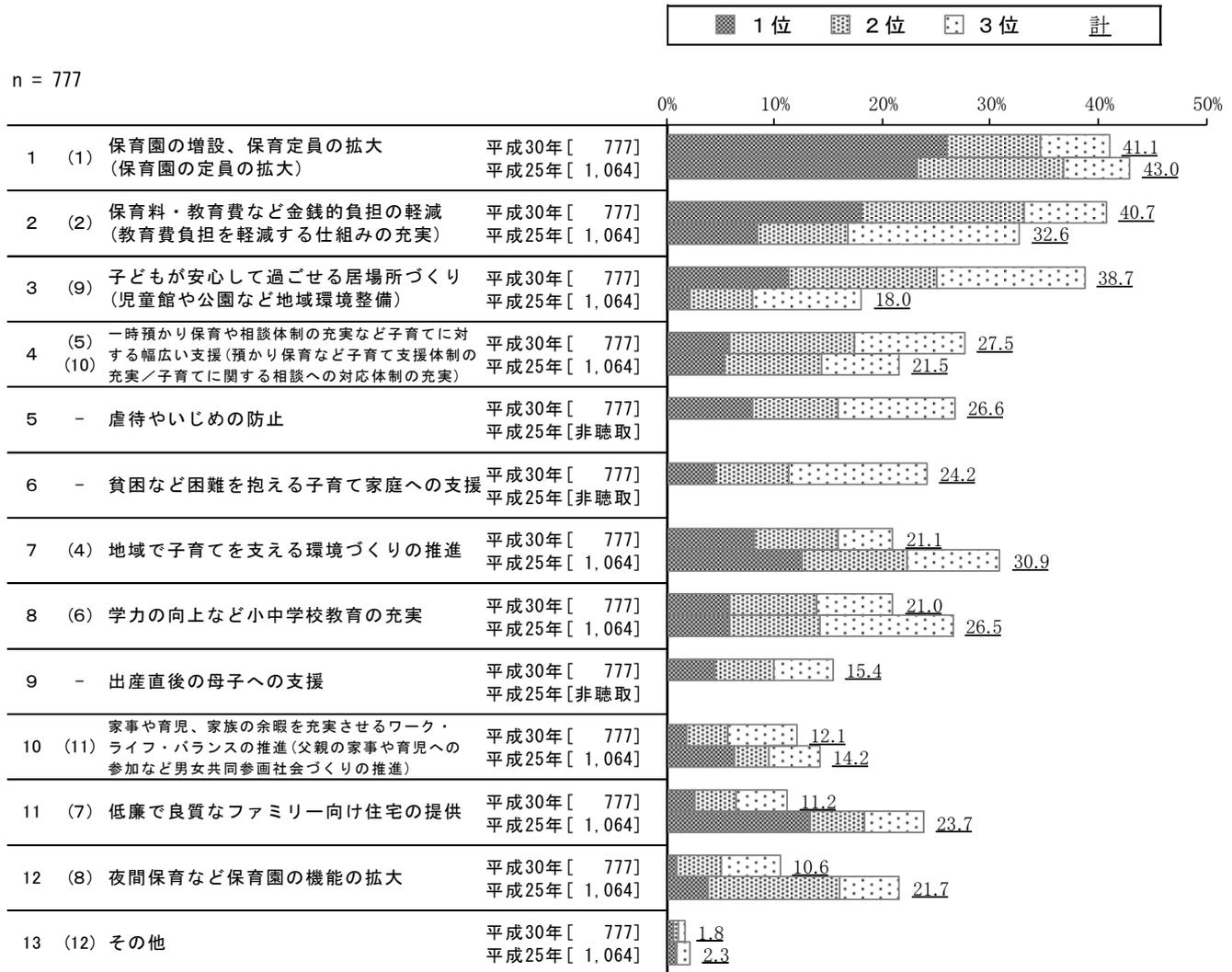


※ () 内は平成25年度調査の順位及び設問項目

4. 「少子社会への対応」に関して力を入れていくべき課題

■ 『保育園の増設・保育定員の拡大』が4割強

「少子社会への対応」に関して力を入れていくべき課題では、第1位の率、第1位から第3位を合算した率のいずれにおいても『保育園の増設・保育定員の拡大』、『保育料・教育費など金銭的負担の軽減』、『子どもが安心して過ごせる居場所づくり』の順に高い結果となった。特に第1位では、当該の3つの選択肢を選んだ人の率を合計すると、全体の半数を超える結果となった。



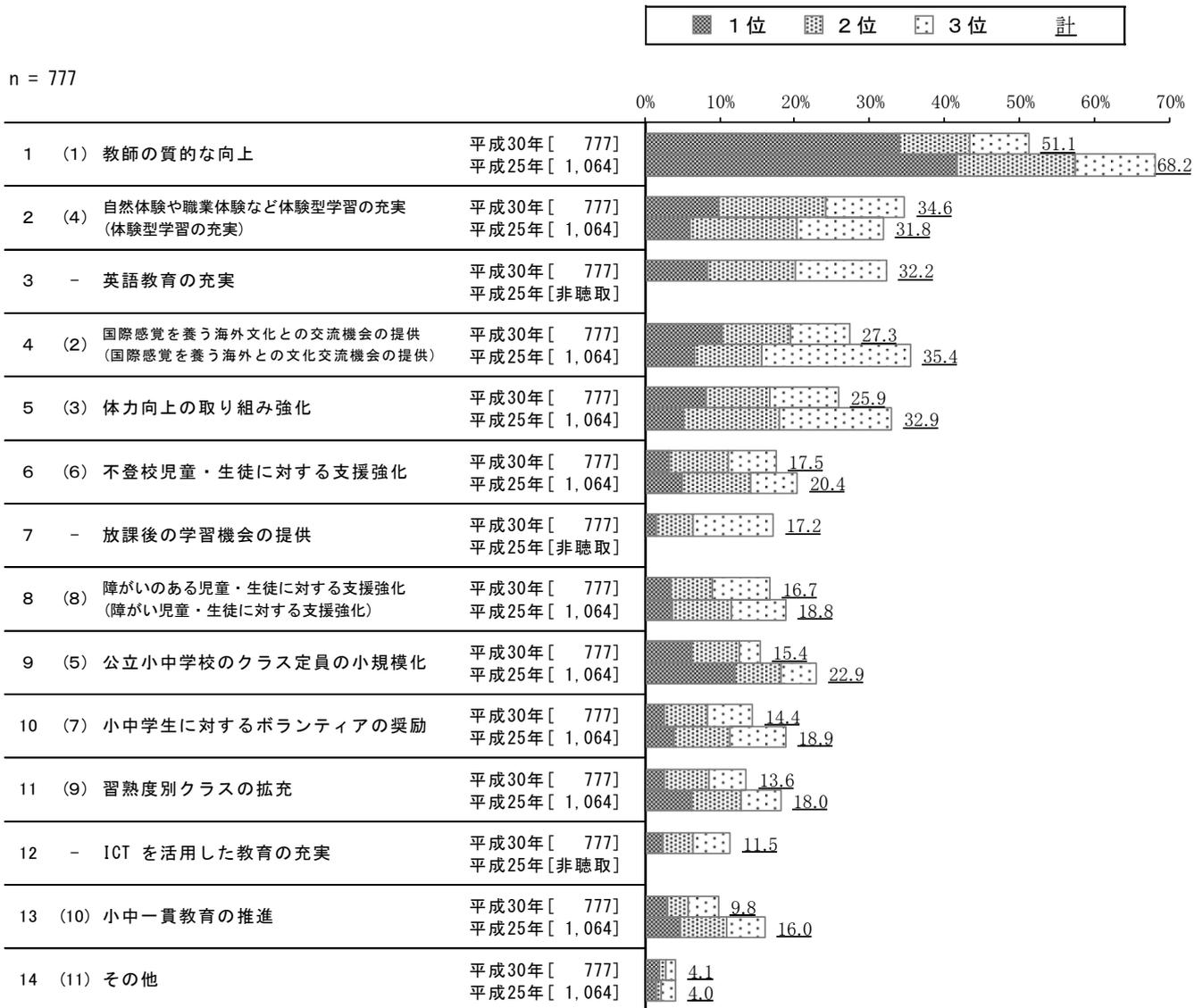
※ () 内は平成25年度調査の順位及び設問項目

※ 4位の『一時預かり保育や相談体制の充実など子育てに対する幅広い支援』は平成25年度調査において2つの項目に分かれていたため、2つの項目の平均で数値を算出

5. 「教育の充実」に関して力を入れていくべき課題

■ 『教師の質的な向上』が5割強

「教育の充実」に関して力を入れていくべき課題の第1位では、『教師の質的な向上』が34.0%と他の項目よりも高い結果となった。第1位～第3位の回答を合算した率で見ると『教師の質的な向上』が51.1%で最も高く、次いで『自然体験や職業体験など体験型学習の充実』(34.6%)、『英語教育の充実』(32.2%)の順となった。

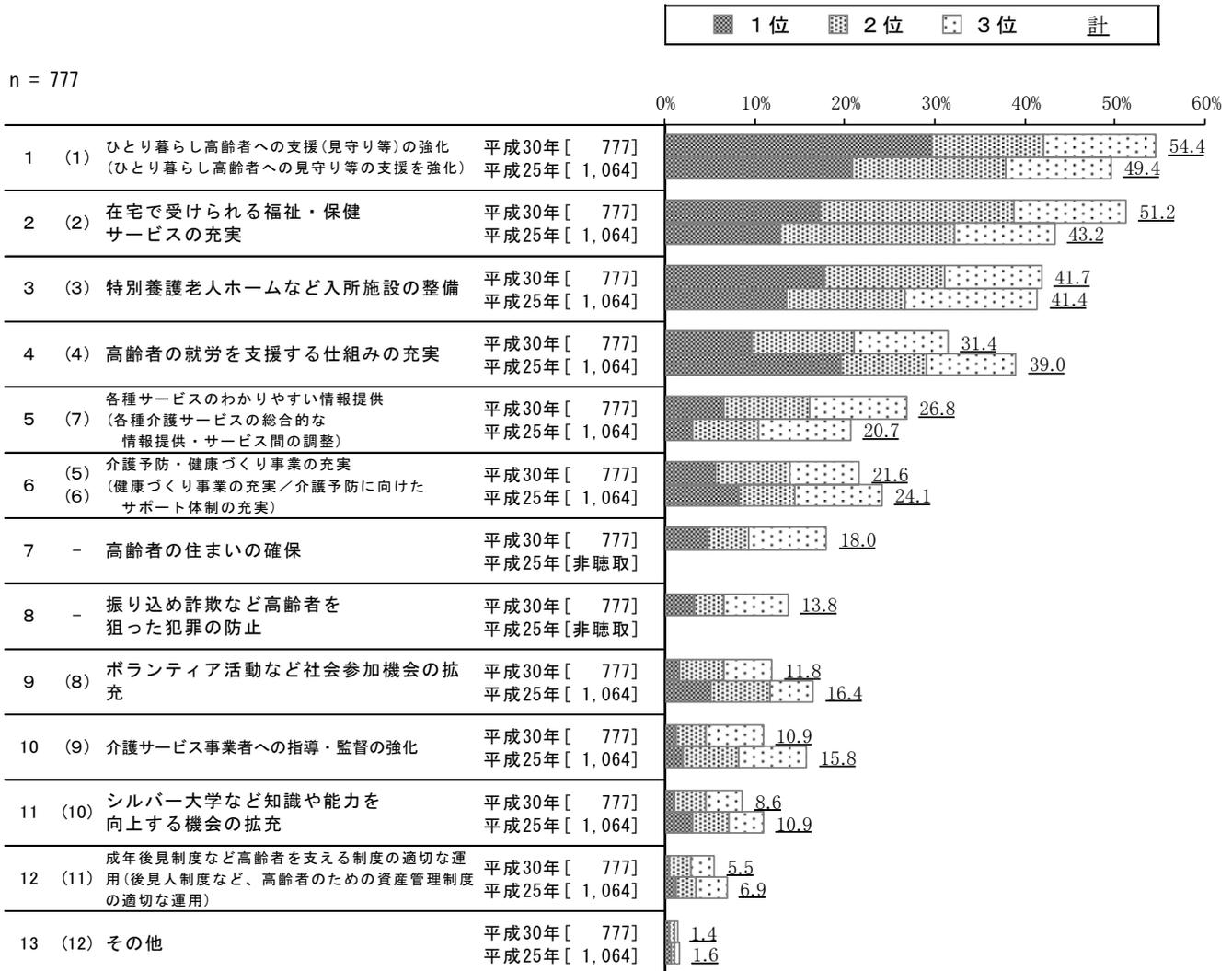


※ () 内は平成25年度調査の順位及び設問項目

6. 「高齢社会への対応」に関して力を入れていくべき課題

■ 『ひとり暮らし高齢者への支援（見守り等）の強化』が5割台半ば近く

「高齢社会への対応」に関して力を入れていくべき課題の第1位では、『ひとり暮らし高齢者への支援（見守り等）の強化』が29.6%となり、次いで『特別養護老人ホームなど入所施設の整備』（17.8%）、『在宅で受けられる福祉・保健サービスの充実』（17.2%）の順となった。第1位～第3位の回答を合算した率で見ると、『ひとり暮らし高齢者への支援（見守り等）の強化』が54.4%で最も高く、次いで『在宅で受けられる福祉・保健サービスの充実』（51.2%）、『特別養護老人ホームなど入所施設の整備』（41.7%）の順となった。



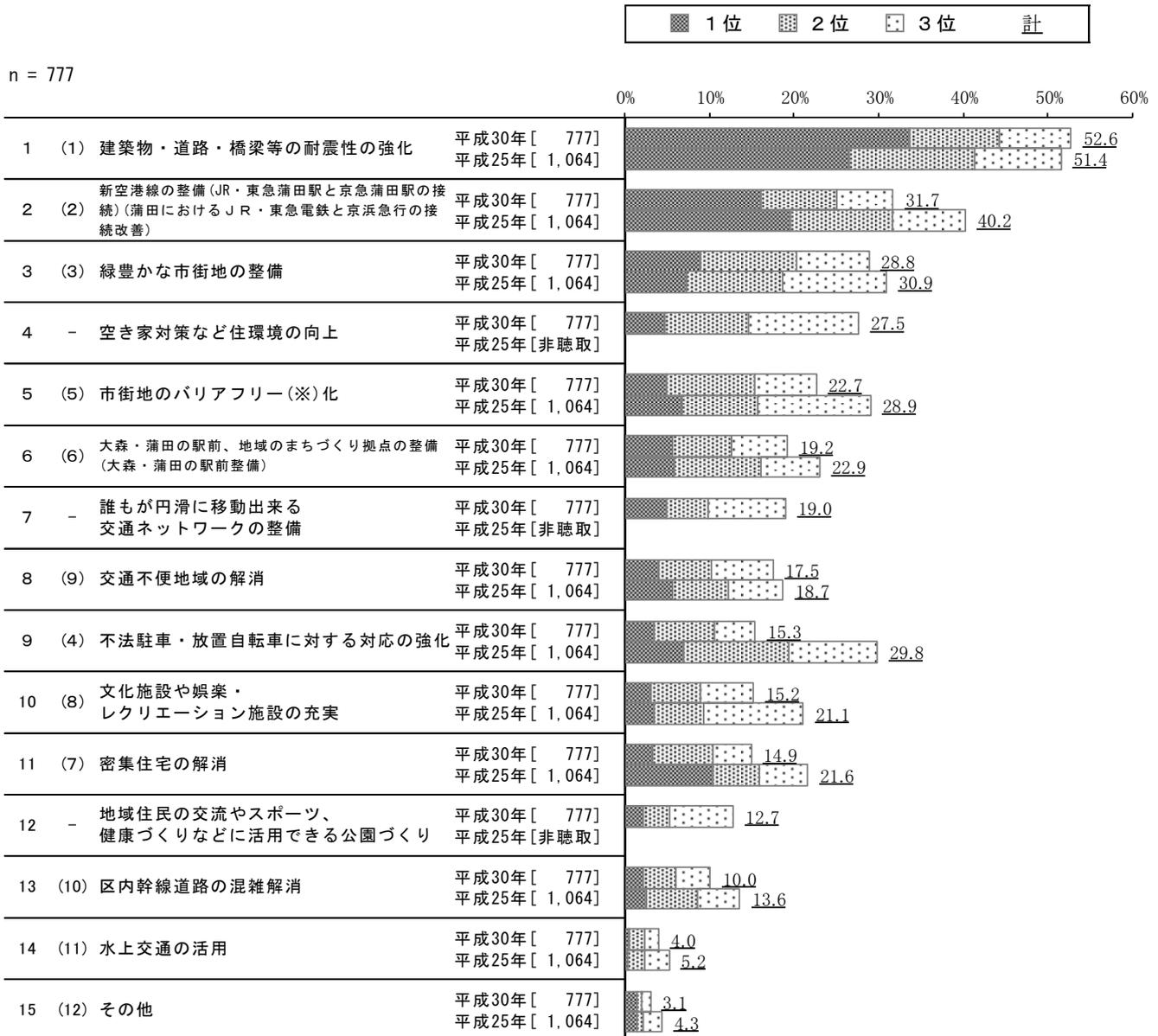
※（）内は平成25年度調査の順位及び設問項目

※6位の『介護予防・健康づくり事業の充実』は平成25年度調査において2つの項目に分かれていたため、2つの項目の平均で数値を算出

7. 「住みよいまちづくり」に関して力を入れていくべき課題

■ 『建築物・道路・橋梁等の耐震性の強化』が5割強

「住みよいまちづくり」に関して力を入れていくべき課題の第1位では、『建築物・道路・橋梁等の耐震性の強化』が33.6%と全体の3分の1を超え、次いで『新空港線の整備（JR・東急蒲田駅と京急蒲田駅の接続）』（16.1%）となった。第1位～第3位の回答を合算した率で見ると、『建築物・道路・橋梁等の耐震性の強化』が52.6%で最も高く、次いで『新空港線の整備（JR・東急蒲田駅と京急蒲田駅の接続）』（31.7%）、『緑豊かな市街地の整備』（28.8%）、『空き家対策など住環境の向上』（27.5%）の順となった。

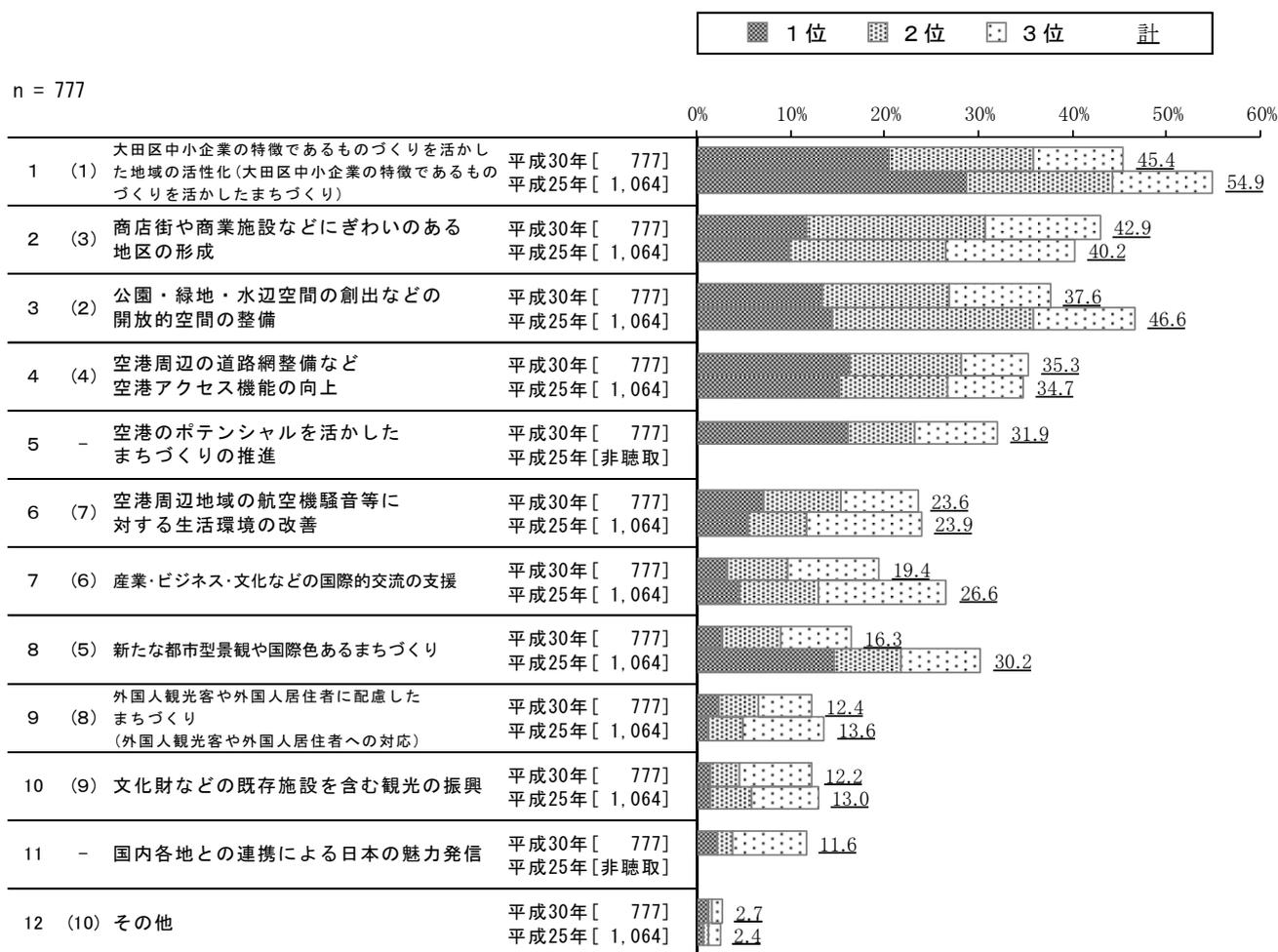


※ () 内は平成25年度調査の順位及び設問項目

8. 『羽田空港』が立地する大田区でのまちづくり』として取り組みを進めるべき課題

■ 『大田区中小企業の特徴であるものづくりを活かした地域の活性化』が4割台半ば

『羽田空港』が立地する大田区でのまちづくり』として取り組みを進めるべき課題の第1位では、『大田区中小企業の特徴であるものづくりを活かした地域の活性化』が20.5%で最も高く、次いで『空港周辺の道路網整備など空港アクセス機能の向上』(16.2%)、『空港のポテンシャルを活かしたまちづくりの推進』(16.1%)の順となった。第1位～第3位の回答を合算した率で見ると、『大田区中小企業の特徴であるものづくりを活かした地域の活性化』が45.4%で最も高く、次いで『商店街や商業施設などにぎわいのある地区の形成』(42.9%)、『公園・緑地・水辺空間の創出などの開放的空間の整備』(37.6%)、『空港周辺の道路網整備など空港アクセス機能の向上』(35.3%)の順となった。

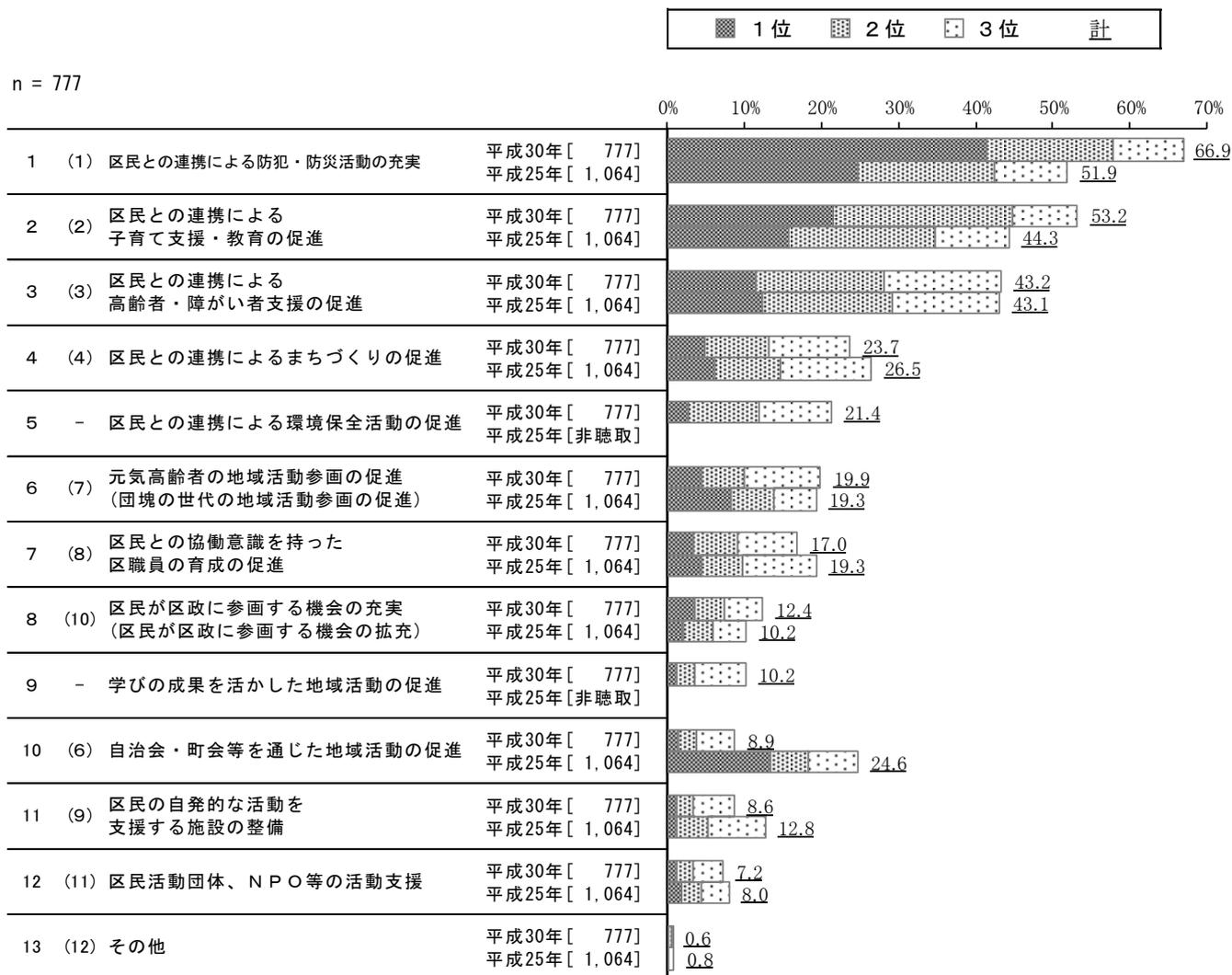


※ () 内は平成25年度調査の順位及び設問項目

9. 「地域力を活かした区政」に関して力を入れていくべき課題

■ 『区民との連携による防犯・防災活動の充実』が6割台半ばを超えている

「地域力を活かした区政」に関して力を入れていくべき課題では、第1位の率、第1位から第3位を合算した率のいずれにおいても『区民との連携による防犯・防災活動の充実』、『区民との連携による子育て支援・教育の促進』、『区民との連携による高齢者・障がい者支援の促進』の順に高い結果となった。特に第1位では、当該の3つの選択肢を選んだ人の率を合計すると、全体の7割を超える結果となった。

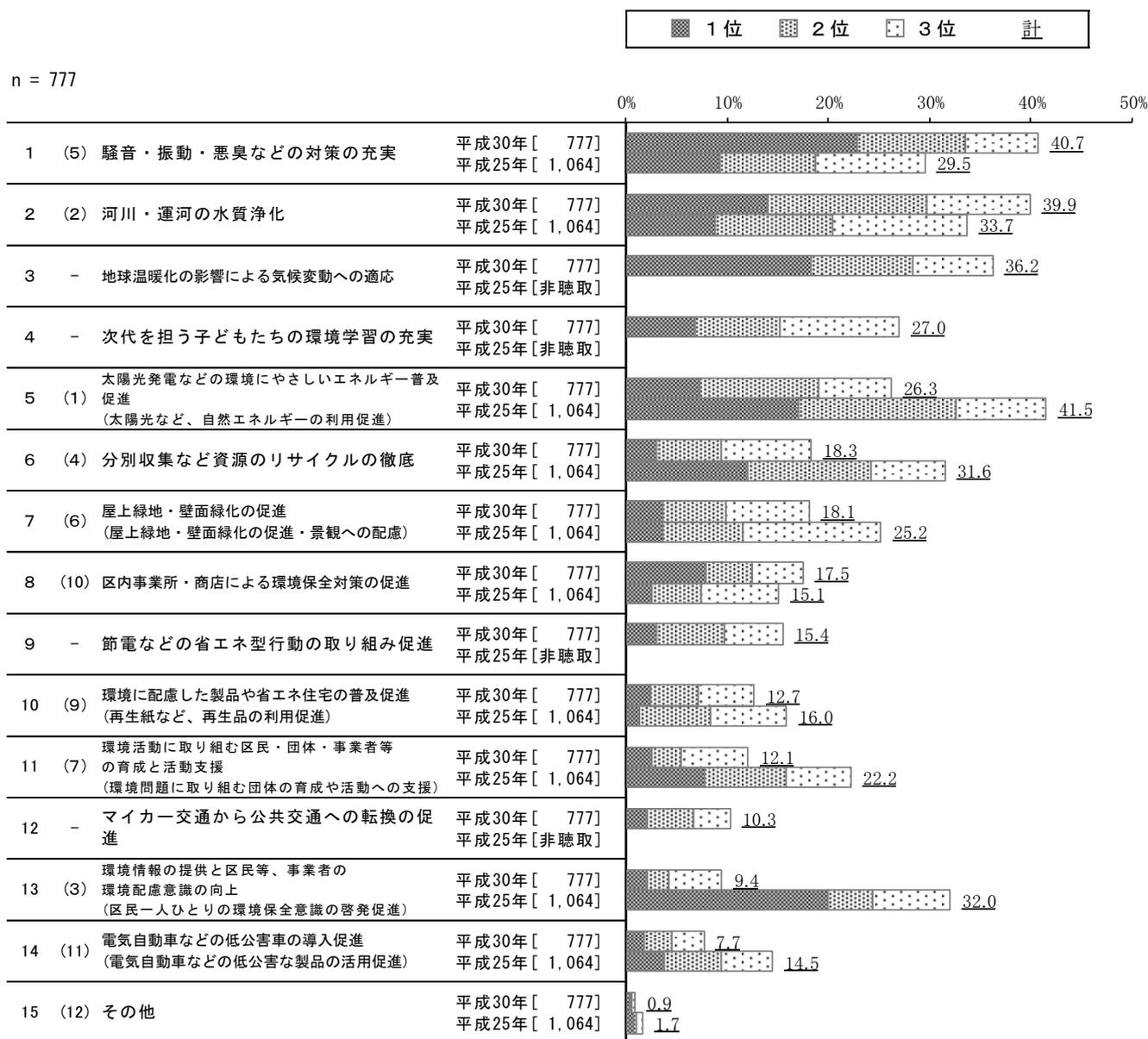


※ () 内は平成25年度調査の順位及び設問項目

10. 「環境問題」に関して力を入れていくべき課題

■ 『騒音・振動・悪臭などの対策の充実』が約4割

「環境問題」に関して力を入れていくべき課題の第1位では、『騒音・振動・悪臭などの対策の充実』が22.9%と最も高く、次いで『地球温暖化の影響による気候変動への適応』（18.3%）、『河川・運河の水質浄化』（14.0%）の順となった。第1位～第3位の回答を合算した率で見ると、『騒音・振動・悪臭などの対策の充実』が40.7%で最も高く、次いで『河川・運河の水質浄化』（39.9%）、『地球温暖化の影響による気候変動への適応』（36.2%）の順となった。

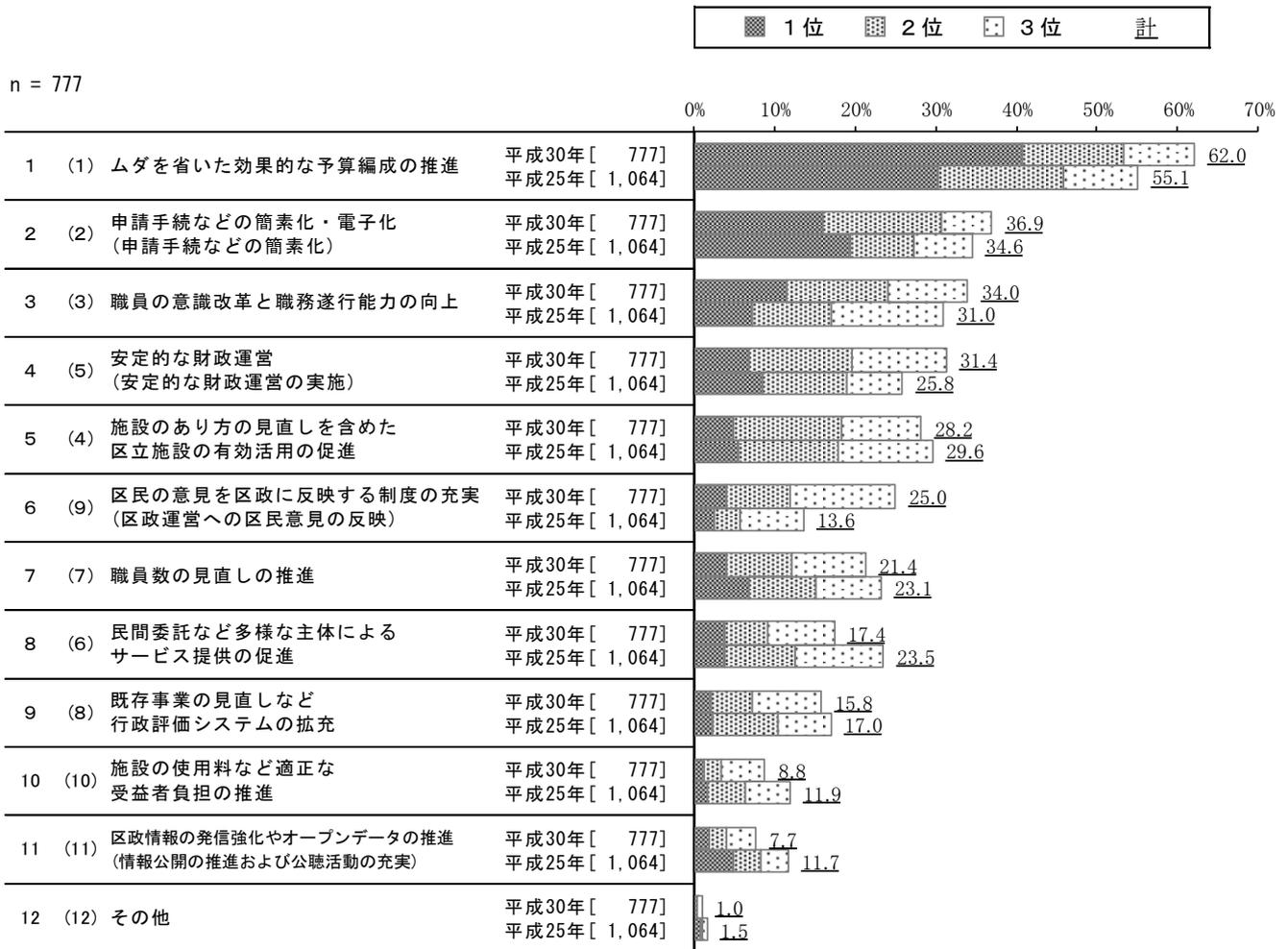


※ () 内は平成25年度調査の順位及び設問項目

11. 「区民主体の区政実現」に関して力を入れていくべき課題

■ 『ムダを省いた効果的な予算編成の推進』が6割強

「区民主体の区政実現」に関して力を入れていくべき課題では、第1位の率、第1位～第3位の回答を合算した率のいずれにおいても『ムダを省いた効果的な予算編成の推進』、『申請手続などの簡素化・電子化』、『職員の意識改革と職務遂行能力の向上』の順に高い結果となった。特に第1位では、当該の3つの選択肢を選んだ人の率を合計すると、全体の6割を超える結果となった。

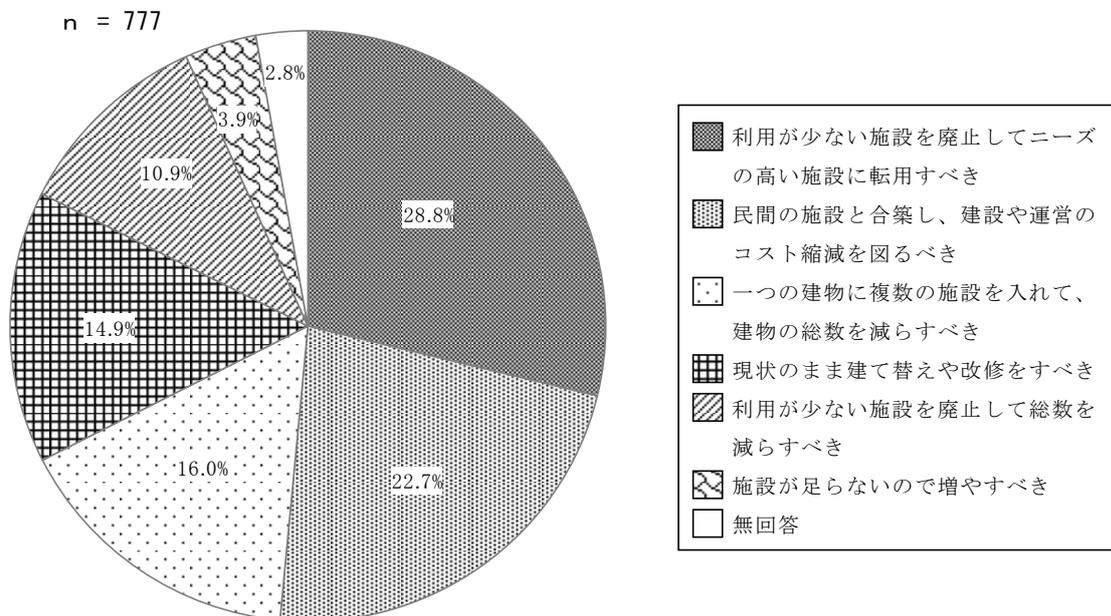


※ () 内は平成25年度調査の順位及び設問項目

12. 今後の公共施設整備の進め方

■ 『利用が少ない施設を廃止してニーズの高い施設に転用すべき』が3割近く

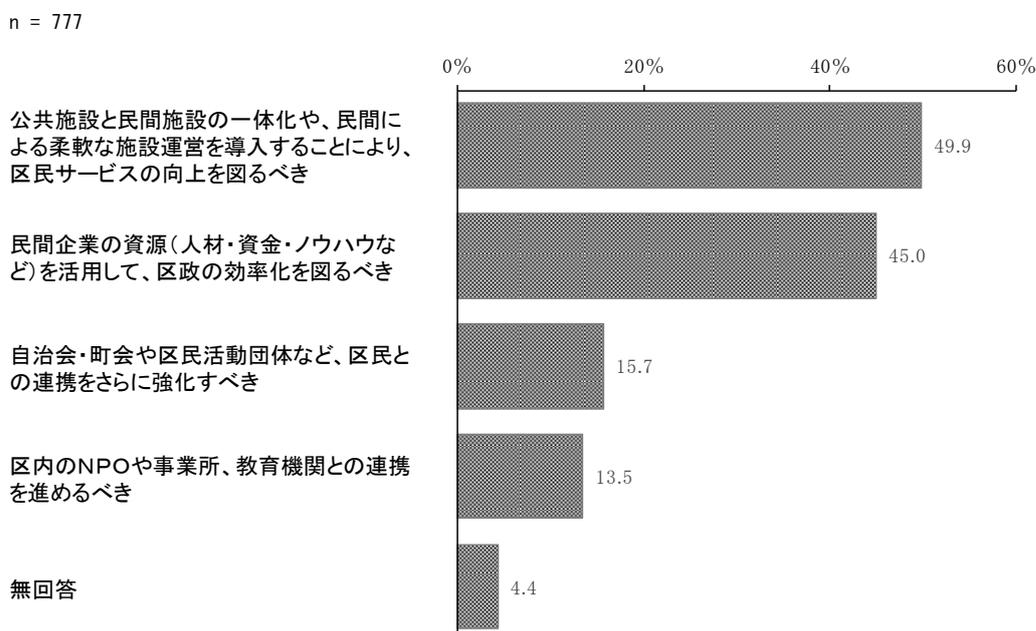
「今後の公共施設整備の進め方」について全体で見ると、『利用が少ない施設を廃止してニーズの高い施設に転用すべき』が28.8%で最も高く、次いで『民間の施設と合築し、建設や運営のコスト縮減を図るべき』(22.7%)、『一つの建物に複数の施設を入れて、建物の総数を減らすべき』(16.0%)の順となった。



13. 今後の公民連携の進め方

■ 『公共施設と民間施設の一体化や、民間による柔軟な施設運営を導入することにより、区民サービスの向上を図るべき』が5割弱

「今後の公民連携の進め方」について全体で見ると、『公共施設と民間施設の一体化や、民間による柔軟な施設運営を導入することにより、区民サービスの向上を図るべき』が49.9%で最も高く、次いで『民間企業の資源(人材・資金・ノウハウなど)を活用して、区政の効率化を図るべき』が45.0%で続く結果となった。

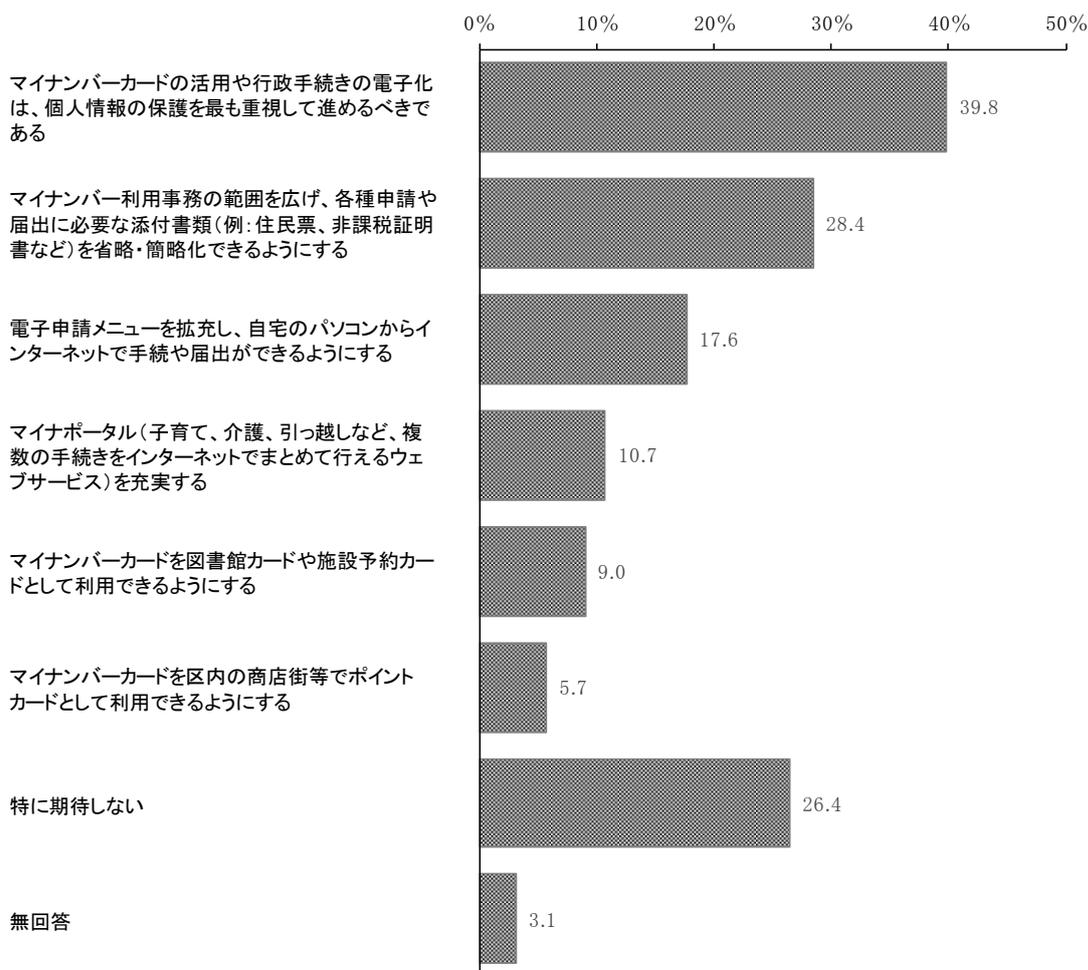


14. マイナンバーカードの活用や行政手続きの電子化などについて期待すること

■ 『マイナンバーカードの活用や行政手続きの電子化は、 個人情報保護を最も重視して進めるべきである』が4割弱

「マイナンバーカードの活用や行政手続きの電子化などについて期待すること」について全体で見ると、『マイナンバーカードの活用や行政手続きの電子化は、個人情報保護を最も重視して進めるべきである』が39.8%で最も高く、次いで『マイナンバー利用事務の範囲を広げ、各種申請や届出に必要な添付書類（例：住民票、非課税証明書など）を省略・簡略化できるようにする』（28.4%）となった。

n = 777

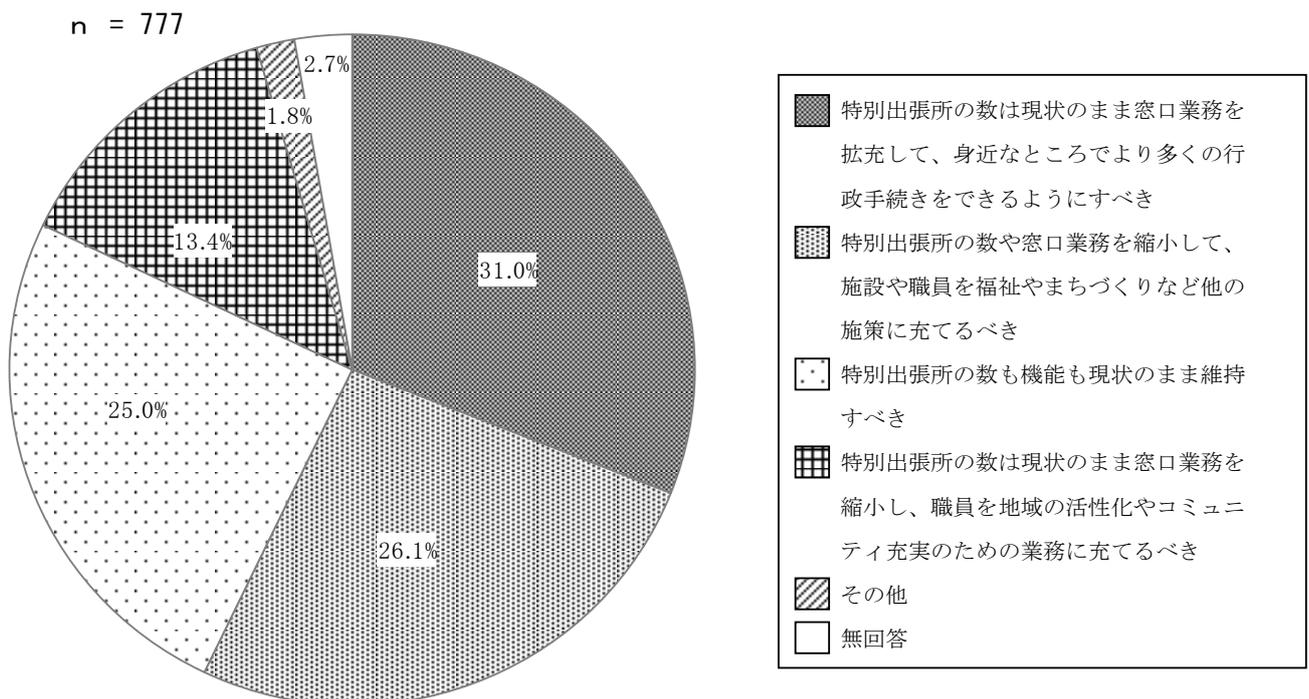


15. 特別出張所の今後のあり方

■ 『特別出張所の数は現状のまま窓口業務を拡充して、身近なところでより多くの行政手続きをできるようにすべき』が3割強

「特別出張所の今後のあり方」について全体で見ると、『特別出張所の数は現状のまま窓口業務を拡充して、身近なところでより多くの行政手続きをできるようにすべき』が31.0%となり、次いで『特別出張所の数や窓口業務を縮小して、施設や職員を福祉やまちづくりなど他の施策に充てるべき』（26.1%）、『特別出張所の数も機能も現状のまま維持すべき』（25.0%）の順となった。

『その他』の意見としては、「特別出張所の数はそのまま、業務を縮小し、保育所や子供が集まる場所を増やす」などがあげられている。



平成30年度 大田区10か年基本計画
「おおた未来プラン10年（後期）」に係る区民アンケート調査

＜ 概要版 ＞

平成30年10月発行

発行 大田区 企画経営部 企画課

東京都大田区蒲田五丁目13番14号

電話 03-5744-1735

F A X 03-5744-1502